

発想の独自性— 明確な差異

谷 徹

(滋賀医科大学 先進的医療研究開発講座 特別教授)

新規な機器、機序の発明には新たに明確な違いがある。違いは医療の技術、道具、治療薬における違いや、効果や有用性・影響の大きさによっても生まれ、それぞれ違いの在り様は異なります。今回、田伏理事長先生と同じセッションでレジェンドの一人として話させてもらう資格を問うならば、我々の開発したマイクロ波機器独自性となります。

田伏先生はマイクロ波凝固穿刺針と肝癌凝固療法、止血法を発明され、マイクロ波治療器の発明と、臨床応用という大事業を成されました。一方、私が開発に関与した手術支援機器（アクトサージ）は同じマイクロ波を使っておりこの仕事に基本的な違いはあるのか考えて見ました。

そのまとめは、凝固壊死療法を目的とする凝固穿刺針と、封止切断・止血を目的とするハサミ型機器との相違であり、基本的には、凝固（封止）切断操作には組織の凝固（加熱）に加え加圧が必須である事でした。

新規な器具の発明とは独自性のある機序、仕組みとその効果で評価される差異であると結論します。